

幼児の造形活動における主体的活動を促す動機づけに関する研究

—保育者と子どもの意識のずれに着目して—

2017

兵庫教育大学大学院

連合学校教育学研究科

教科教育実践学専攻

(兵庫教育大学)

津田 由加子

幼児の造形活動における主体的活動を促す動機づけに関する研究
—保育者と子どもの意識のずれに着目して—

目 次

| | |
|--|-----|
| 序 章 | 1 |
| 1 問題の所在と研究の目的 | 1 |
| 2 研究の内容と方法 | 4 |
| 3 本論で用いる用語について | 6 |
| 4 論文の構成 | 8 |
| 第1章 幼児の造形活動における保育者と子どもの意識のずれについて | 9 |
| 第1節 ずれに着目する意義 | 9 |
| 第2節 実践事例1「かなへびくんのあかいながぐつ」の絵をかこう | 11 |
| 第3節 実践事例2「フライパンで何つくる？」 | 16 |
| 第4節 実践事例3「かたつむりをつくろう」 | 19 |
| 第2章 幼児造形におけるずれの修正過程としての歴史的変遷～明治期から平成期まで～ | 41 |
| 第1節 明治期における保育者と子どもの意識のずれ | 41 |
| 第2節 大正期における保育者と子どもの意識のずれ | 48 |
| 第3節 昭和期（戦前）における保育者と子どもの意識のずれ | 56 |
| 第4節 昭和期（戦後）における保育者と子どもの意識のずれ | 61 |
| 第5節 平成期における保育者と子どもの意識のずれ | 66 |
| 第6節 まとめ | 71 |
| 第3章 幼児の造形活動における動機づけの現状と課題 | 81 |
| 第1節 倉橋惣三の動機づけ理論 | 81 |
| 第2節 幼児の造形活動における指導言のあり方について | 83 |
| 1、実践事例1 幼児の造形活動における指導言のあり方について | 84 |
| 第4節 動機づけにおけるほめ言葉の現状と課題 | 95 |
| 1、ほめ言葉について | 95 |
| 2、ほめ言葉の考察 | 97 |
| 第4章 活動の連続性をもたせるための動機づけを意図した実践 | 107 |
| 第1節 幼児の造形活動における動機づけ | 107 |

| | |
|--------------------------------------|-----|
| 1、内発的動機づけと外発的動機づけ | 107 |
| 2、内発的な動機づけを促すための指導言 | 111 |
| 第2節 内発的な動機づけを意図した言葉がけによる導入 | 113 |
| 1、実践1（構想・結果・考察） | 113 |
| 題材：「一年生になったらどんな友達つくりたい？」 | |
| 2、実践2(構想・結果・考察) | 117 |
| 題材：「お好み焼きをつくろう」 | |
| 第3節 3つの動機づけモデルについて | 120 |
| 第4節 活動に連続性をもたせる動機づけ実践 | 121 |
| 実践事例「新幹線をつくろう」 | |
| 「新幹線を見に行こう」 | |
| 「乗ってみたい新幹線をつくろう」 | |
| 1、研究の概要 | 121 |
| 2、活動の内容 | 122 |
| 3、実践の分析、考察 | 122 |
| 4、まとめ | 130 |
| 終章・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | |
| 133 | |
| 第1節 研究のまとめ | 134 |
| 1、幼児の造形活動における保育者と子どもの意識のずれについて | 134 |
| 2、幼児造形におけるずれの修正過程としての歴史の変遷 | 135 |
| 3、幼児の造形活動における動機づけの現状と課題 | 136 |
| 4、活動の連続性をもたせるための動機づけを意図した実践 | 137 |
| 第2節 今後の課題 | 138 |
| (資料) | |
| 幼児造形におけるずれの修正過程としての歴史の変遷～明治期から平成期まで～ | |
| 資料の見方 | |
| 明治期 | 1 |
| 大正期 | 14 |
| 昭和期（戦前） | 24 |
| 昭和期（戦後） | 40 |
| 平成期 | 77 |